



教育センターだより

高岡市教育センター
令和6年3月4日



みんなが当事者

高岡市小学校長会 会長 大門 信吉

当事者意識とは、「自分がその物事の関係者である」と自覚している意識であり、他人事ではなく、自分事として自ら積極的に関わろうとする姿勢ともいえる。

昨年、WBCで優勝した栗山監督が、チームの選手に贈った手紙があるという。そこには、「あなたは日本代表の一員ではなく、あなた自身が侍ジャパンなのだ」と書かれていたそうだ。選手のチームに対する当事者意識を高める究極の一言だと思った。そういえば、職場の電話応対。ひと昔前は「はい、〇〇学校の〇〇です」と名前を名乗るのがビジネスマナーだと教えられた。それが最近では、個人情報保護のためか自分の名を名乗らず、「はい、〇〇学校です」と答える方が多くなったと思うのは気のせいだろうか。自分=学校である。

私の初任校は、母校である旧平米小学校。今から約3年前に勤めたのが旧定塚小学校。そして現在の勤務校は、両校が統合してできた高陵小学校である。不思議な縁を感じる。この間、学校の再編・統合に携わる機会に恵まれた。これまで勤務した学校への愛着もあり、誰よりも当事者意識をもって仕事に当たったつもりである。

学校のスローガンを「みんなでつくろう！子供が輝く高陵小」と掲げ、何をすべきか、何が必要か全教職員で考えるところから始めた。その中で一番の課題は、子供同士の融和であった。小さな学校が大きな学校に飲み込まれないよう、統合以前から新しい学校への期待感を高め、統合後も子供たちが共に

活動する喜びを味わえるよう、教職員が当事者意識をもって精力的に取り組んだ。もちろん、市教育委員会のご指導の下、PTA、地域の方々の大きな支援があったことは言うまでもない。

何よりもこの当事者として頑張ったのは子供たちである。中には不安で戸惑う子もいたと思うが、特に6年生は、「新しい学校の伝統をつくるのはわたしたちだ」と、リーダーとしての自覚をもち、主体的に仲間づくりに取り組んだ。

その結果、大人たちの不安をよそに子供たちは、数多くの友達からの刺激を受けて切磋琢磨し、眠っていた力を様々な場面で発揮した。運動会や学習発表会、各種大会等、大人数だからこそ成し得た大きな成就感や満足感を味わう姿が随所にみられた。統合の成果を子供たちの姿から感じることができ、うれしく思う。

一般的に、当事者意識が高い人材が多くいる組織ほど、チームの課題を解決しようという意欲が高いと言われる。学級の中では子供たちが、学校においては教職員が、様々な課題を自分事として受け止め、主体的に関わっていく集団づくりに努めていきたいものである。

統合からはや2年が経とうとしている。子供たちは分け隔てなく学校生活を送り、統合したことなど、はるか昔のことのよう to 思える。



教職員研修紹介



高岡市初任者研修会

～教師としての喜びや誇りを知り、仲間と共に悩みを分かち合う～

◇第1回 5月11日(木) 戸出コミュニティセンター

教育長講話「教員としての歩みを始められた皆さんに」

講師：高岡市教育委員会 教育長 近藤 智久 先生



教員生活をスタートさせたばかりの初任者教員に向けて、近藤教育長よりご講話をいただきました。教育長ご自身が経験された「教員1年目の衝撃」や「他市からの異動で味わった驚き」など、誰もが経験しうる興味深いお話に、受講者は、熱心に耳を傾けていました。課題に向き合う際に、周りの先生方から教えていただいたことに感謝すること、書物等で調べたことが少しずつ財産になっていくこと等、今後の教員生活への貴重なアドバイスもいただきました。

「教育を通して自己実現を図ることが教員のやりがい」「子供たちの成長や変容の瞬間に立ち会える喜び」等の言葉から、受講者は、教員としてのやりがいや誇りを実感することができました。

◇第2回 8月31日(木) 戸出コミュニティセンター

講話等「よりよい学級集団をつくるために」

講師：高岡市教育センター所長 高松 毅 先生

アドバイザー：高岡市教科指導員



2学期が始まったばかりの第2回研修日。2学期を元気に迎えてほしいという願いを込めて「よりよい学級集団づくり」をテーマに、高岡市教育センターの高松所長から、ご講話をいただきました。高松所長ご自身のご経験をお話いただき、「楽しいことは『楽しい思い出に』、つらい経験は『教師としての財産に』」や「問題は必ず起こる。教師も失敗する。失敗したときにどうするか、そのときに教師(学校)の真価が問われる」等、心に響くメッセージをいくつもいただいたことで、「勇気をもらった」との感想が多くありました。

グループ協議では、高岡市教科指導員の先生方をアドバイザーに迎え、学級づくりや人間関係づくりについて、情報交換をしたり、悩みを出し合ったりしました。互いに悩みを共有し、アドバイスを出し合ったことで、2学期への希望や抱負をもつことにつながったようです。

◇第3回 11月30日(木) 戸出コミュニティセンター

講話等「こころを紡ぐ ～生徒指導はじめの一步～」

講師：高岡市立戸出西部小学校 校長 豊原 正貴 先生



第3回のテーマは、「生徒指導・保護者対応」です。受講者アンケートでも、このテーマに関する悩みが多く、関心の高さが伺えます。講師に高岡市立戸出西部小学校の豊原校長先生をお迎えし、ご教示いただきました。演習やクイズを通して、生徒指導とは何かについて受講者が真剣に考える場もありました。「失敗から学ぶ生徒指導」と題して、豊原校長先生がご経験された様々な事例を紹介していただく中で、生徒や保護者、そして職場の仲間たちと「こころを紡ぐ」ことのすばらしさを教えていただきました。受講者からの質問にも具体的に答えていただき、生徒指導はじめの一步の歩みへ力強く応援してくださいました。



専科教員研修会

～教科の専門家としての学びを深める～

【第1回】6月7日（水）高岡市役所803

指導講話 「専科教員として期待すること」

講師：高岡市立横田小学校 校長 荻沢 芳美 先生



第1回は、高岡市立横田小学校の荻沢校長先生より「専科教員として期待すること」と題してご講話をいただきました。専科教員の役割や専門的な教科指導の効果等について、実践例を基に分かりやすくご指導いただきました。指導講話の後は、グループ協議を行いました。教科指導の工夫や悩み等を共有したことで、今後の取組に生かしていきたいとの感想も多くみられました。

【第2回】1月30日（火）戸出コミュニティセンター

教科別研修 ー専科指導の成果と課題ー

担当教科の
授業参観



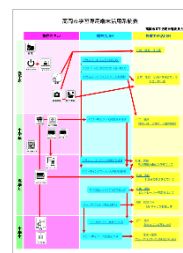
本研修では、2回の集合型研修に加えて、各自が担当教科の授業を小学校・中学校両方で参観する研修も行いました。第2回研修では、各自が研修してきたことを教科別のグループ協議で紹介しました。グループ協議では、教科指導についてより専門的な話題が出たことで、積極的に質問し合う姿が印象的でした。

調査研究事業

～小中一貫教育を目指して～

◇ICT活用推進委員会の取組より◇

9年間を見通した端末活用を目指し、「高岡市小中学校情報活用能力の系統表」を作成しました。誰もが簡単に活用できるよう、発達段階に応じた最低限身に付けたい内容に精選し、リンクを使用して素早く情報を入手できるよう工夫しました。系統表の内容や活用方法は、来年度の研修等で周知していく予定です。ぜひご活用ください。



◇全国学力・学習状況調査分析委員会の取組より◇

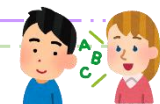
今年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、9月の「高岡市立学校学習指導改善研修会」にて、分析結果を報告しました。その際には、演習等も交え、目指すべき子供の姿や資質・能力について考え、今後の授業改善に生かせるようにしました。

小・中学校の教員が、それぞれ、小学校・中学校両方の分析結果を知ることを通して、小中一貫教育の充実を図りたいと考え、発表内容を吟味・工夫しました。



◇高岡イングリッシュセミナー実行委員会の取組より◇

市内の小・中学生が参加する「高岡イングリッシュセミナー‘2023’」の企画・運営を行いました。小学生と中学生が共に英語に親しみ、「ふるさと高岡」のよさを再確認できるよう、活動内容を工夫しました。小学生と中学生が協力しながら発表内容をつくりあげるために、発達段階に応じた役割を考えるなど、何度も話し合いを重ねて準備を進めました。今後も、郷土への愛着や英語によるコミュニケーション能力を系統的に育てるための取組を検討していきます。



☆高岡市適応指導教室(きらら子教室)より

心の居場所づくり

高岡市適応指導教室では、子供たちの心の居場所づくりに努めながら、主体性や社会性を育むために、様々な活動に取り組んでいます。子供の可能性を伸ばすために、今年度新たに始めた取組を紹介します。



◇専門性を生かした特別授業 ～学ぶ楽しさを知るために～

通級生に学ぶ楽しさを味わわせたいと考え、特別講師を招き、講師の専門分野を生かした特別授業を実施しました。学ぶ楽しさを知ることで、学習への意欲を高めるとともに、得意分野を伸ばすなど、自信や自己肯定感にもつながると考えました。

特別講師は、公認心理師や地域人材、教育センター職員等です。特別授業の内容は、おもしろ理科実験や天文、写生、絵手紙作成、国語文法等、多岐にわたり、参加した子供たちは、初めての体験等にも意欲的に挑戦し、楽しく学ぶ姿が見られました。

同施設内に勤務する公認心理師によるリラックス体験授業では、「いやな気分の時に体をリラックスさせると、いやな気分がおさまっていく」ことについて教えていただきました。子供たちは「ゆっくり呼吸」や「体の力を抜く」体験に興味をもって取り組み、リラックスする方法の大切さを実感することができました。



◇親子交流活動 ～コミュニケーションを図る喜びを知るために～

コミュニケーションを図る楽しさや喜びを経験する場として、親子交流活動を実施しました。交流活動の前半は、親子そろっての「絵手紙教室」です。講師の上田恭治先生から、墨で下絵を描くときの筆の持ち方、構図や着色の仕方等、ポイントを分かりやすく教えていただきました。参加者は、親子で楽しそうに会話しながら、柿やもみじ等の秋のものをじっくり観察し、のびのびと描いていました。

交流活動の後半は、「親子レクリエーション大会」です。それぞれトランプをするチームと卓球をするチームに分かれ、親子対決等の楽しい場面に笑い声が響いていました。今後も、人と関わることの喜びを味わう場を継続して設定していきたいと思います。



高岡市適応指導教室(きらら子教室)では、悩みを抱える児童生徒や保護者との相談活動、不登校児童生徒への支援等を行っています。対象児童生徒についての相談は随時受け付けております。(TEL 20-1656)

教育相談の状況 (R5 1月~R5 12月)

少年育成センター(守護町)で行っている「少年なんでも相談」では、医療専門相談員と相談員が、青少年や保護者、教員等の相談に、電話や面談で応じています。R5年1月~12月までの相談件数は、671件でした。困っている保護者の方がいらっしゃいましたら、先生方からも、ご紹介ください。保護者からの希望があれば、面談の予約(9:00~16:00)をいたします。

困ったことがあったら、気軽に「少年なんでも相談」TEL.(20-1653)に電話してください。



高岡市教育センター

〒933-8601 高岡市広小路7番50号(学校教育課内)

TEL 20-1204

FAX 20-1667

ホームページは、こちらから

